

(別添)

# 長崎県対馬病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定

【長崎県対馬病院の基本情報】

医療機関名：長崎県対馬病院

開設主体：長崎県病院企業団

所在地：長崎県対馬市美津島町雞知乙1168番7

許可病床数：275床

（病床の種別）一般病床 222床、精神病床 45床、感染症病床 4床、結核病床 4床

（病床機能別）高度急性期機能8床、急性期機能164床、回復期機能50床

稼働病床数：

（病床の種別）一般病床 222床、精神病床 45床、感染症病床 4床、結核病床 4床

（病床機能別）高度急性期機能8床、急性期機能164床、回復期機能50床

診療科目：内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腫瘍内科、神経内科、  
人工透析内科、外科、腫瘍外科、整形外科、脳神経外科、精神科、  
リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、  
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、緩和ケア放射線科、  
臨床検査科、救急科、麻酔科

職員数：

- ・ 医師 32
- ・ 看護職員 272
- ・ 専門職 101
- ・ 事務職員 33

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

・ 地域人口及び高齢化の推移

全国的に少子高齢化が進行していますが、本県は、人口減少のスピードが九州で最も早く、約50年前から人口減少に陥り、現在まで約33万人の人口が減少しています。そのような中、離島である対馬地域においては、1960年（昭和35年）の69,556人をピークとして本土地区を上回る勢いで急速に人口減少が進行しており、2017年（平成29年）10月末時点では、31,454人と約半減以下となっています。2,025年には、25,418人、2040年には、17,938人まで減少するという危機的推計となっています。

【表】各構想区域の国勢調査人口・将来推計人口の推移（単位：人）

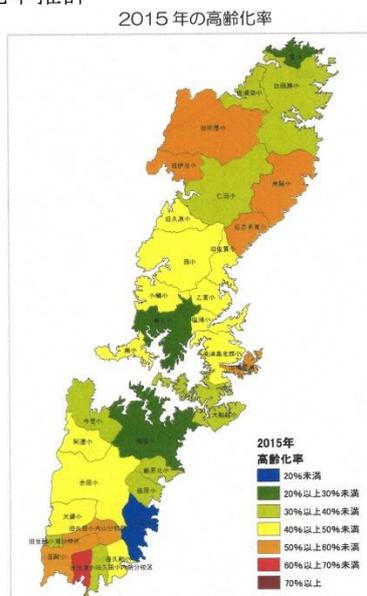
	2000	2005	2010	2014	2025	2030	2035	2040	割合 2025/2014	割合 2040/2014
長崎	590,900	560,668	547,587	535,159	491,367	468,254	443,882	417,976	91.8%	78.1%
佐世保県北	357,690	348,653	334,750	324,518	289,589	273,530	257,267	240,767	89.2%	74.2%
県央	252,470	272,256	270,050	268,307	252,766	244,464	235,271	225,146	94.2%	83.9%
県南	160,838	154,088	145,063	137,765	119,325	110,904	102,744	94,633	86.6%	68.7%
五島	48,533	44,765	40,622	37,944	30,529	27,498	24,680	21,967	80.5%	57.9%
上五島	31,324	28,307	24,923	22,712	17,405	15,306	13,393	11,624	76.6%	51.2%
壱岐	33,538	31,414	29,377	27,458	23,617	21,869	20,223	18,657	86.0%	67.9%
対馬	41,230	38,481	34,407	31,670	25,418	22,784	20,292	17,938	80.3%	56.6%
長崎県計	1,516,523	1,478,632	1,426,779	1,385,533	1,250,016	1,184,609	1,117,752	1,048,728	90.2%	75.7%
全国(千人)	126,962	127,768	128,058	126,958	120,659	116,618	112,124	107,276	95.0%	84.5%

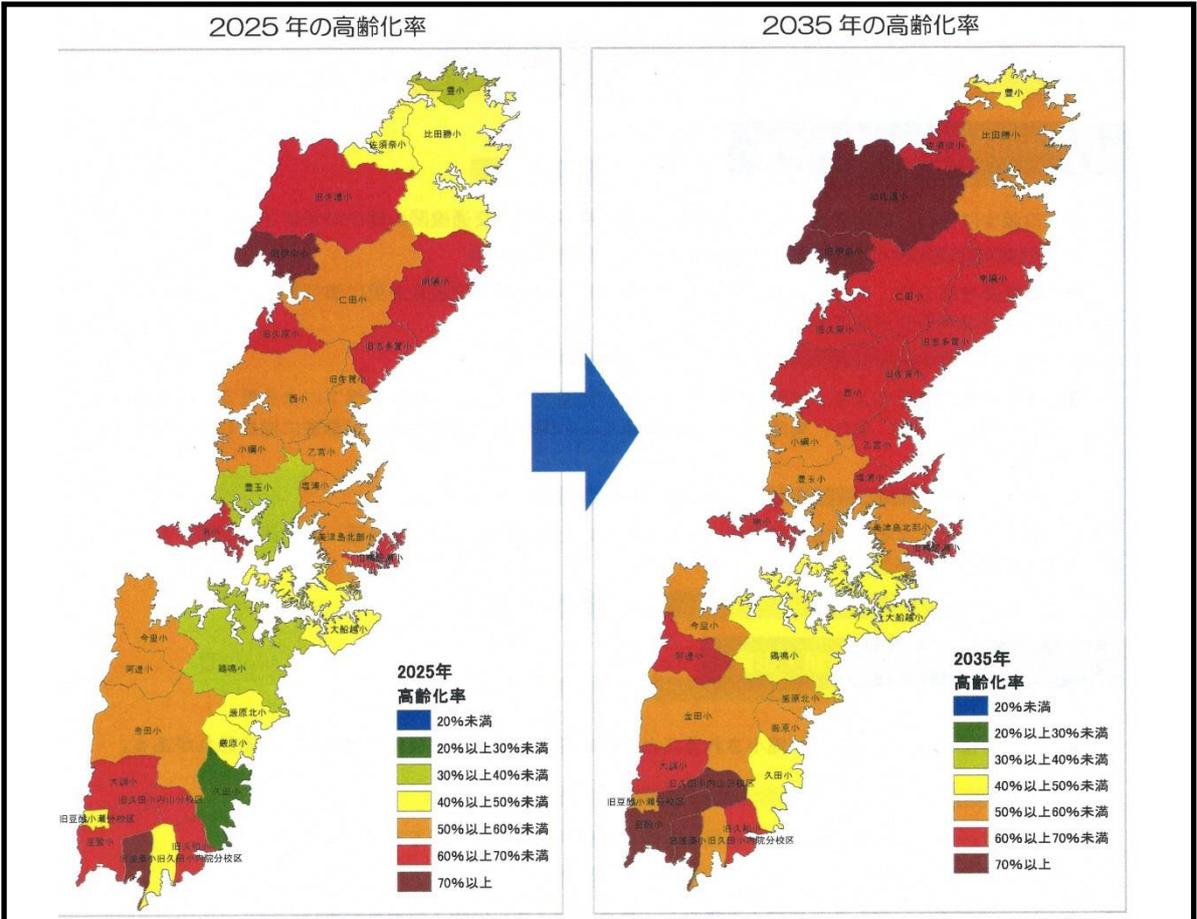
※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」公表資料より  
 ※「2014年」は平成26年10月1日推計人口、2000年、2005年、2010年は国勢調査人口

高齢化率については、2010年（平成22年）国勢調査数値に基づく、小学校区別高齢化率を見ると、2015年現在では5つの小学校区単位で高齢化率50%以上になっている。なお、このままの状況が続けば、33の小学校区（旧小学校区含む）中、2025年度には、高齢化率70%以上の小学校区が2校区となり、限界集落の定義とされる50%以上については、22小学校区にのぼることが予想される。また、2035年度には、4小学校区以外は、すべて限界集落となる見込みです。

【表】対馬市小学校区毎の高齢化率推計

小学校区毎の高齢化率推計	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	35年/10年
厳原小学校区	5,985	5,195	4,480	3,795	3,166	2,597	43.5
厳原北小学校区	1,261	1,122	960	808	668	545	43.2
久田小学校区	2,424	2,190	1,887	1,598	1,347	1,135	46.8
旧久和小校区	113	98	83	68	55	43	38.1
旧内院分校区	166	149	128	109	89	71	42.8
旧内山分校区	124	100	81	67	53	41	33.1
旧瀬分校区	163	140	119	100	83	68	41.7
旧浅瀬小学校区	155	130	107	85	64	46	29.7
豆酸小学校区	803	700	589	478	378	289	36.0
阿連小学校区	298	250	205	169	137	110	36.9
金田小学校区	850	739	620	507	406	320	37.6
大瀧小学校区	362	304	246	199	161	128	35.4
鶴鳴小学校区	4,630	4,414	4,079	3,682	3,263	2,875	62.1
今里小学校区	603	549	493	436	379	325	53.9
大船越小学校区	1,384	1,303	1,196	1,075	954	838	60.5
北部小学校区	781	720	649	568	486	406	52.0
旧鶴居瀬小学校区	443	398	352	301	247	195	44.0
豊玉小学校区	1,348	1,201	1,049	905	775	659	48.9
南小学校区	651	561	478	395	317	247	37.9
旧塩浦小学校区	505	443	383	323	269	216	42.8
乙宮小学校区	766	683	588	490	397	316	41.3
小瀬小学校区	476	421	355	290	231	183	38.4
西小学校区	1,030	912	789	661	543	438	42.5
旧佐賀小学校区	874	800	696	587	481	388	44.4
旧志多賀小学校区	392	345	298	248	198	154	39.3
佐須奈小学校区	1,022	879	734	603	488	392	38.4
旧佐藤小学校区	701	602	501	404	317	244	34.8
旧伊奈小学校区	271	232	189	147	111	82	30.3
仁田小学校区	1,040	894	755	629	516	416	40.0
旧久原小学校区	471	402	336	275	221	173	36.7
比田藤小学校区	2,949	2,545	2,171	1,830	1,531	1,262	42.8
旧南陽小学校区	753	652	551	450	359	281	37.3
豊小学校区	633	569	493	425	365	313	49.4
計	34,407	30,642	26,640	22,707	19,055	15,796	45.9



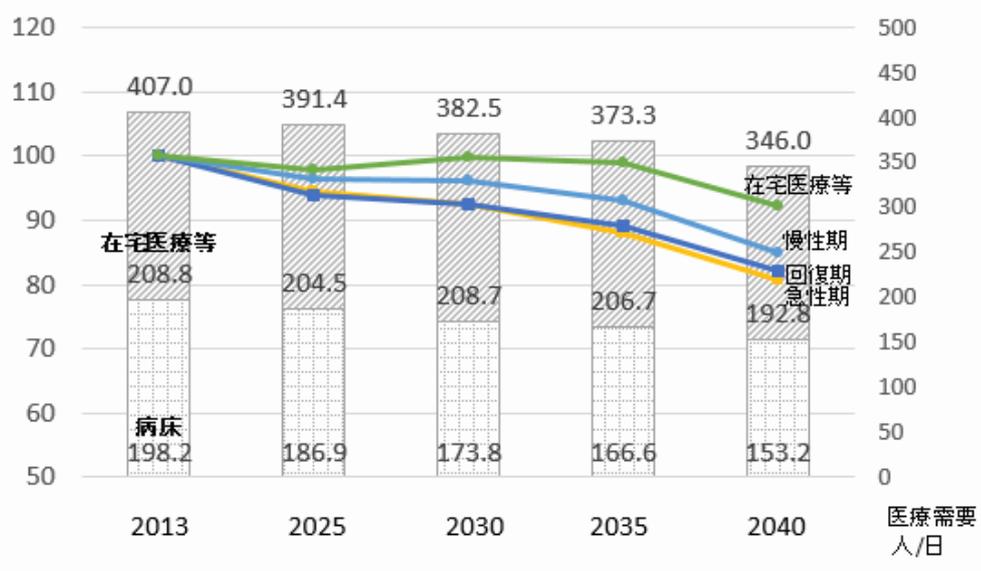


※対馬市長期人口ビジョンより

・ 地域の医療需要の推移

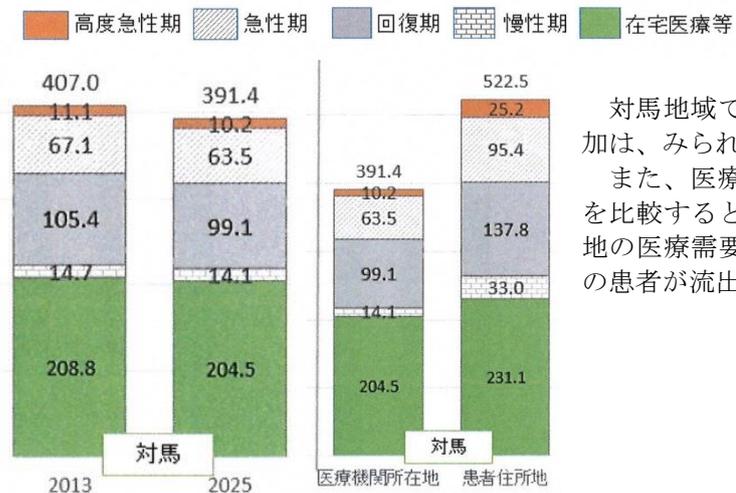
病床の医療需要、在宅医療等の医療需要ともに減少に向かう

【対馬地域】



・ 地域の医療需給の特徴

対馬医療需要（2013年と2025年の比較）、（医療機関所在地と患者住所地の比較）



対馬地域では、医療需要も大幅な増加は、みられません。

また、医療機関所在地と患者住所地を比較すると、患者住所地の医療住所地の医療需要が多くなっており、一定の患者が流出しています。

② 構想区域の課題

○対馬地域は医療資源が乏しく自宅での在宅医療は困難。介護系施設や高齢者向け集合住宅が必要。

○維持期リハビリテーションの継続のための通所リハビリテーション施設が不足

○あじさいネット導入で、対馬病院の医療情報を他の施設等が共有し、病院と診療所の連携、介護施設との連携、院外薬局等との連携を推進し、島内全体でシステムを共有すること。

### ③ 自施設の現状

#### ○病院理念

私たち対馬病院職員は、「対馬の人々が、泣きながら生まれ、健やかに育ち、朗らかに働き、穏やかに老いて、安らかに人生を終えること」ができるよう支援します。

#### ○基本方針

- 医療の確保と医療水準の向上
- 患者中心の医療
- 保健・福祉との連携
- 安全管理の徹底
- 健全経営の確保
- 職員の意識の向上

#### ○診療実績

(一般)

届出入院基本料：10対1看護、平均在院日数：19.1日、病床稼働率86.2%

#### ○職員数

医師32名、看護職員272名、専門職101名、事務職員33名

#### ○特徴

4機能のうち急性期が中心

#### ○政策医療

対馬島内の中核病院として、5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、5事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療（その他）、在宅医療など）を提供。

### ④ 自施設の課題

- 人口減少、少子・高齢化等の地域環境の変化を踏まえた医療の提供
- 医師等医療従事者の確保
- 経営の健全化

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 対馬の最終病院として、対馬市の地域医療の中核としてさらに医療の充実を図る。
- 対馬の地域包括ケアの中心となり対馬医療を支える。
- 対馬医療圏の中核病院として、急性期、小児・周産期、精神、救急、災害、へき地医療など、質の高い島内完結医療を提供
- 地域リハビリテーション広域支援センターとしての院内でのリハビリテーションの提供のほか、地域関係者の研修会等を実施。
- 後方支援病院、診療所、関係施設との連携の構築。
- 地域医療連携室を中心とした在宅医療の強化
- 地域医療を担う人材育成のため、医師等医療従事者の研修受入体制を整備。地域

② 今後持つべき病床機能  
現状維持。

③ その他見直すべき点  
経営の効率化

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	8	→	8
急性期	164		164
回復期	50		50
慢性期	0		0
(合計)	222		222

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			<p>2 年度で 集中的な 検討を 促進 進</p> <p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第7次医療計画</p> <p>第8期 介護保険 事業計画</p>
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率：87%</li> <li>・ 手術室稼働率：48%</li> <li>・ 紹介率：19%</li> <li>・ 逆紹介率：18%</li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費率：65%</li> <li>・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.5%</li> </ul> <p>その他：</p>
--

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--